

IV 各教科の分析結果

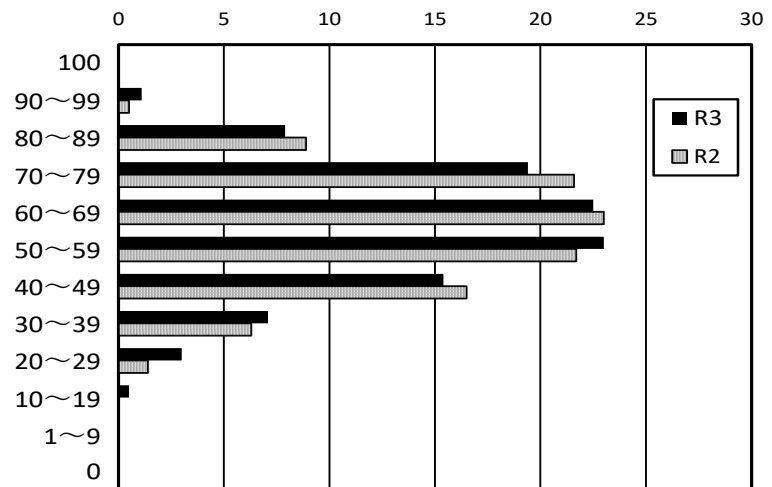
国 語

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合	R3 %	R2 %
100		0.0	0.0
90～99		1.1	0.5
80～89		7.9	8.9
70～79		19.4	21.6
60～69		22.5	23.0
50～59		23.0	21.7
40～49		15.4	16.5
30～39		7.1	6.3
20～29		3.0	1.4
10～19		0.5	0.0
1～9		0.0	0.0
0		0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した630人(15.5%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
㊦	文学的な文章	67.2	57.3	72.6	67.8	62.7
㊧	説明的な文章	65.3	58.9	67.3	59.0	64.1
㊨	言語活動	69.2	48.6	56.1	59.3	52.4
㊩	古典	52.0	62.3	59.4	54.4	55.0

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、58.3点で、昨年度と比べ下降した(昨年度58.8点)。

(※) 平均点は全日制すべての合格者4,055人のものである。

〈表1〉に関して、50点台の人数が全体の23.0%で最も多い(昨年度は、60点台で23.0%)。70点以上の人数は全体の28.4%で、昨年度に比べ減少した(昨年度31.0%)。40点未満の人数は全体の10.6%で、昨年度に比べ増加した(昨年度7.8%)。

〈表2〉について、㊦、㊩の正答率が昨年度より高かった。一方、㊧、㊨の問題の正答率は昨年度より低かった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率」について、正答率80%以上の問題数は10問で昨年度に比べ減少した(昨年度11問)。基礎的・基本的な言語事項や内容を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は6問で昨年度に比べ増加した(昨年度5問)。文章や資料から読み取った情報を思考・判断して表現する設問の正答率が低かった。具体的には、漢字の読み書き(㊦、㊧の問一)、訓読の仕方(㊩の問三)といった言語事項、行書とそれに調和した仮名の書き方(㊩の問五)、文脈の中における語句の意味(㊦の問二)、登場人物の言動の意味を考えた内容の理解(㊦の問三)、文章全体と部分との関係性を考えた内容の理解(㊧の問二)、話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめる(㊨の問二)といった、選択肢の中から解答する問題の正答率が高かった。一方、文章の展開に即した登場人物の言動や心情の理解(㊦の問四)、文章を読み、人間や自然などについて考え、自分の意見をもつ(㊧の問六)、文の成分の照応(㊨の問四)、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨く(㊩の問二(-))、歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ(㊩の問四)といった問題の正答率が低かった。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率(%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
二	問一	文学的な文章	①	61.0											
			②	99.5											
			③	51.7											
	問二		86.8												
	問三		88.1												
	問四		37.4												
	問五		38.1												
三	問一	説明的な文章	①	92.1											
			②	97.5											
			③	95.2											
	問二		80.0												
	問三		64.6												
	問四		59.2												
	問五		60.8												
四	問一	言語活動	集めた材料を分類するなどして整理することができる。	64.2											
	問二		話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができる。	82.3											
	問三		社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。	48.2											
	問四		文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えることができる。	27.3											
	問五		書いた文章を読み返し、文章全体を整えることができる。	42.7											
四	問一	古典	助詞の働きを理解することができる。	73.1											
	問二		(一)	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くことができる。	20.3										
			(二)	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができる。	46.6										
	問三		訓読の仕方を知り、古典の世界に触れることができる。	84.3											
	問四		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。	33.8											
	問五		行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することができる。	82.1											

4 特徴的な問題

<ねらい>

この問題は、文章の展開に即して登場人物の言動や心情をとらえる問題である。

<分析>

正答率は37.4%であった。課題としては、登場人物の言動の意味を前後の叙述に即して考えること、「わたし」という視点人物を通した登場人物の描写が理解できていないことなどが考えられる。

<提案>

日常の指導では、叙述を根拠にして読み取った内容から登場人物の言動の意味をとらえさせることを基本として、話の展開や構造の特徴、作品全体に表れたものの見方と関連付けて考えさせ、多角的な視点から読みを深める機会を増やすなどの工夫も必要である。

<ねらい>

この問題は、二つの文章を読み比べ、人間、社会、自然などについて考え、自分の考えを表現する問題である。

<分析>

正答率は39.1%であった。課題としては、二つの文章を読み比べ、文章全体の論述の過程からものの見方や考えの進め方の類似点や相違点が読み取れていないこと、付与された設問の条件から文章をとらえ直し、考えを再構築して表現できていないことなどが考えられる。

<提案>

日常の指導では、段落ごとの内容を把握するだけでなく、文章全体の論述の過程から目的に応じて情報を収集したり、複数の文章を読み比べ、書き手のものの見方や考えの進め方について共通点や類似点、相違点で整理して表現したり、広く人間や社会、文化、自然などについて自分の意見をもち、表現する機会を設けるなどの工夫も必要である。

〈標準解答〉

たとえ拙い

問四 文章中の——線③「

「」について、「わたし」は、このような様子から、清澄は何をしようとしていると考えたか。それが分かる連続する二文を、文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

※著作権の関係により、問題の一部について掲載しておりません。

〈標準解答〉

(例) **I**は人間が加工しない自然の部分に、人間の力を超えたものに到達する可能性を感じることで、**II**は人の清掃活動と自然の風化によって生じるものを、美として慈しむこと。

問六 **I**と**II**の文章における、日本人の美意識について、日本人

と自然との関わり方が分かるように、「**I**は、**II**は」という形式で、八十字以内で説明しなさい。

＜ねらい＞

この問題は、批評文という形態に応じて書いた文章を読み返し、文章全体を整える問題である。

＜分析＞

正答率は42.7%であった。課題としては、説得力のある批評文にするという推敲の目的、主張と根拠にあたる各付箋の役割、奈月さんの考えや論理の展開が理解できていないこと、複数の資料から情報を取り出し、適切に引用しながら、条件に沿って書き直せていないことなどが考えられる。

＜提案＞

日常の指導では、書いた文章を、論理の展開や表現の仕方について相互評価し、助言し合い、生徒自身が気付いて修正するなどの交流の工夫も必要である。自分の考えを広げ、よりよい表現になるよう文章全体を整え直す機会を設定したい。

批評文を書くことと、批評する活動は両輪である。自分の判断や価値の理由、根拠を明確に示す指導も大切にしたい。説得力を高めるには、選んだ資料が考えの根拠として適切かどうか、資料と自分の考えとの関係について補足できているか、評価しながら進めるなどの工夫も必要である。

三

＜標準解答＞

(例) かわいそうにといい、また、オオクニヌシを主役とする物語にしようとしている。いちばんすぐれた方と世の人々の認める物

感想のこころは別格して「二文書こう。批評文の一文めは、根拠を足そう。三文めは、気づいた特徴をもとに「作者はなぜこう書いたのか」と考え、自分の考えの部分を書き直そう。そして、今ある各段に「さう」と考案して、根拠をしよう。これら二つの内容を付箋に書き出そう。そして、付箋の内容を批評文に付け足したり、置き換えたりしよう。

【改案】

・作者が、かわいそうにといい、気づいた特徴をもとに「作者はなぜこう書いたのか」と考え、自分の考えの部分を書き直そう。そして、今ある各段に「さう」と考案して、根拠をしよう。これら二つの内容を付箋に書き出そう。そして、付箋の内容を批評文に付け足したり、置き換えたりしよう。

【付箋】

・作者は、オオクニヌシを主役とする物語にしようとした。

・作者が、世の人々の認める結果に変わっている。

・オオクニヌシのやさしい人柄が書いてある。私は作品Aの方が好きだ。脚本をいちばんすぐれた方と決めていて、オオクニヌシが活躍する結末と思った。

問五 【改案案】と、次の条件に従い、奈月さんの批評文を推敲しなさい。

(条件)

・もとの批評文の内容を踏まえて、二文で九十文字以内で書くこと。

・解答用紙に合わせて、「一文めは「作者が」の後から書き出し、「二文めは」ものが「A」という作品だ」に続くように書くこと。

・付箋に書かれている内容は、すべて加えること。

・付箋と批評文の文頭や文末表現については、前後に合うような形に変えてもよい。

奈月さんのメモ	
観点	気づいた特徴
人物像	やさしい人柄が書いてある
現代語訳	結末をいちばんすぐれた方・オオクニヌシが活躍する結末と決めていた
題意	オオクニヌシが活躍する結末と決めていた
考えたこと	作品Aの方が好き

【奈月さんの批評文】

作品Aでは、オオクニヌシのやさしい人柄が書いてある。私は作品Aの方が好きだ。脚本をいちばんすぐれた方と決めていて、オオクニヌシが活躍する結末と思った。

問五 【改案案】と、次の条件に従い、奈月さんの批評文を推敲しなさい。

(条件)

・もとの批評文の内容を踏まえて、二文で九十文字以内で書くこと。

・解答用紙に合わせて、「一文めは「作者が」の後から書き出し、「二文めは」ものが「A」という作品だ」に続くように書くこと。

・付箋に書かれている内容は、すべて加えること。

・付箋と批評文の文頭や文末表現については、前後に合うような形に変えてもよい。

＜ねらい＞

この問題は、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像する力をみる問題である。

＜分析＞

正答率は46.6%であった。課題としては、漢和辞典で調べた語句の意味を、文脈において具体的にとらえられていないこと、興廃の意味をつかむ際に熟語の構成の知識を活用できていないことなどが考えられる。

＜提案＞

日常の指導では、言葉に着目し、言葉の特徴やきまりに関する学習内容を活用することで内容の理解ができた、さらに古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いを想像することができた、という実感を生徒にもたせるなどの工夫も必要である。出会った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させ、調べたことを記録させるなどの工夫も必要である。

四

＜標準解答＞

問二 古文Aの——線②「古を以て鏡としては興廃を知り」について、次の問いに答えなさい。

(二) 次の【漢和辞典で調べた内容の一部】を含めて考えたとき、——線②を説明したものとして、最も適当なものを、後のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

【漢和辞典で調べた内容の一部】

ア 遠く過ぎ去った世と照合し、成功や発展の歴史を知ること。

イ 遠く過ぎ去った世を先例に、繁栄や衰退の歴史を知ること。

ウ 遠く過ぎ去った世を考慮し、損失や廃止の歴史を知ること。

エ 遠く過ぎ去った世と反対に、流行や滅亡の歴史を知ること。

【鏡】かがみ

1 顔や姿をうつして見る道具。青銅の鏡。

2 光を反射させるもの。

3 手本。模範。